

[講演要旨]

小川琢治博士の地震調査フィールドノート:1909年姉川地震～1938年紀伊水道地震

中西一郎<sup>1</sup>・服部健太郎<sup>1</sup>・露木啓悟<sup>1</sup>・加納靖之<sup>2</sup>・渡辺周平<sup>1</sup>

<sup>1</sup>京都大学理学部, <sup>2</sup>京都大学防災研究所

京都大学理学部には小川琢治博士(1870～1941年)と中村新太郎博士(1881～1941年)のフィールドノート及び関連資料が保存されている。現在この資料の整理と解読作業を行っている。小川博士の資料整理(簡単な目録作り)は終わり、解読作業を始めた。中村博士の資料については整理中である。

小川博士のノートは全部で83冊ある。最も古いものには明治21年(1888年)に書かれたノートもある。当時第1高等学校在学中で、表紙には「明治二十一年九月 浅井琢治」と記されている。83冊の内容は様々である。ノート中に見出された地震名、ノート番号(仮番号)と内容の簡単なメモを表1に示す。1909年(明治42年)姉川地震発生時、小川博士は文学部地理学教室教授であった。1923年(大正12年)関東地震発生時には、理学部地質学鉱物学教室教授であった。また、小川博士は昭和5年(1930年)に京都大学を退官している。この表から小川博士の地震研究への情熱がうかがえる。表1には1925年但馬地震、1927年丹後地震があるが、前者は小川博士のノートではなく、後者は中村博士関連資料中に見出された小川博士宛の調査報告の葉書3通である。

但馬・丹後地震に関する多くの資料(ノート、写真、調査日誌、手紙)が中村博士関連資料中にある。中村博士(当時地質調査所技師)のノートに「一戸準備 四十二年」と題する一戸一常陸地質調査の準備ノートがあり、「三陸海嘯 二十九年六月十五日午後八時前後」と記されている。今村明恒による姉川地震に関する論説中に中村博士も地震調査に参加したと書かれている。姉川地震調査ノートも残されている可能性がある。

表1 小川琢治博士の地震ノート:地震名, ノート番号(仮), 内容のメモ.

地震名	ノート番号	内容のメモ
1909年 姉川	4	墓の図, 「震災被害調書 阪田郡」の表
1914年 桜島	39	桜島噴火の降灰: volcanic breccia, tuff sandstone
1923年 関東	12	温度測定
1923年 関東	33の1	調査日誌
1923年 関東	33の1	葉書3通: 本間講師から小川博士宛の現地報告
	33の1	歴史地震年表(自作か): 縦書き
	33の1	地震年表: 横書き
	33の1	地震研究の注意: 調査出発前に学生に行った授業メモか
1925年 但馬	40	上賀茂観測所の Wiechert 記録の検測ノートか ノートの表紙に筆署名アリ: I. Kado 1925年5月23日10時19分(前震?)～7月16日
1927年 丹後	中村博士関連資料	葉書3通: 小川博士宛の現地報告
1935年 静岡	5	地震の調査(被害・地変), 地質調査, 温泉調査
1936年 河内大和	5	同上
1938年 紀伊水道	5	同上